

現代宗教論

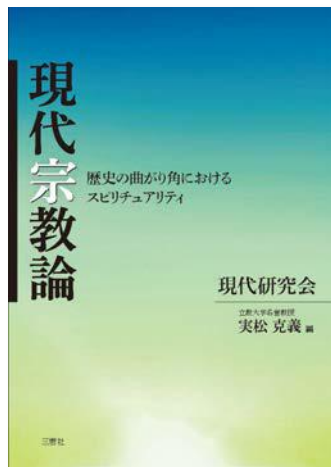
現代研究会

編：実松克義（立教大学名誉教授）

—歴史の曲がり角におけるスピリチュアリティ—

現代における宗教とは何なのか？ この大きな問いに挑戦した12人の執筆者による論考集。

さまざまな領域のメンバーが集まり、現代における多様な課題を扱ってきた「現代研究会」5年間の活動の集大成。人類史において人間の文化と社会を形成してきた原動力である「宗教」は、現代においてどのような在り方をしているのか？我々が宗教と呼ぶものとは何なのか？ 12人の執筆者による13の論考。



目次

第一章	宗教的なもの—個人的体験と私の宗教論 ● 実松克義
第二章	仏教と仏教学の現在 ● 平林二郎
第三章	ムハンマドとキリスト教—イブ・イスハーク『預言者伝』を読む ● 茂木明石
第四章	善悪の彼岸としての宗教—ボン・ヘッファーに触れる試み ● 逆瀬川秀登
第五章	国家神道の創造—明治期の法令全書で探る ● 竹内和正
第六章	私の宗教 ● 桑原真弓
第七章	占いにハマる人たち—宗教より占いを選ぶということ ● 細川啓子
第八章	なぜ「宗教はアブナイ」と言われるのか—我々自身の宗教観の再考に向けて ● 杉平敦
第九章	日本語からみる日本人の精神性—英語との対照からみえること ● 平明子
第一〇章	心と体 ● ラミチャネみなこ
第十一章	インド古典舞踊に学ぶ—個人の体験より ● 神谷暁子
第十二章	異世界転生アニメにみられる日本人の死生観 ● 小村明子
第十三章	存在としての宗教—シャーマニズムはいかにして日常となるか ● 実松克義

編者紹介

実松克義（さねまつ かつよし）

立教大学名誉教授。現代研究会代表。1948年、佐賀県生まれ。日本大学文理学部地理学科卒。カンサス大学大学院で人類学・英語教授法を学ぶ。教育学修士。日本電気国際研修所講師、アテネフランセ講師を経て、1990年立教大学着任。専門は宗教人類学及び英語教育学。中米マヤ地域、南米アンデス地域、アマゾン地域において先住民族宗教文化のフィールドワークを行う。またボリビア・アマゾンにおいて古代文明の発掘調査を行う。2013年定年退職。主な著作に『マヤ文明 聖なる時間の書 現代マヤ・シャーマンとの対話』（現代書林 2000年）、『アンデス・シャーマンとの対話』（現代書館 2005年）、『アマゾン文明の研究』（現代書館 2010年）、『マヤ文明 文化の根源としての時間思想と民族の歴史』（現代書館 2016年）がある。

ご注文申込書 貴店名/帖合	注文数	発売：株式会社三恵社 Tel 052-915-5211 Fax 052-915-5019
		編：実松克義（現代研究会代表、立教大学名誉教授）
		現代宗教論
		—歴史の曲がり角におけるスピリチュアリティ—
	冊	406頁/A5判/並製 定価2,700円(税込) ISBN978-4-86693-670-3 C3014
ご注文は、JRCへ Fax 03-3294-2177 (Tel 03-5283-2230)		
株式会社JRC経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。		

※取次配本はありません。